

1. 地域の将来像

(1) 地域の現状と見通し

- **地域構造**
⇒京阪神都市圏を中心に都市・交通・産業が高密度に集積。
- **本格的な人口減少と急激な高齢化。**
⇒人口は約2,200万人、老年人口は増加。
- **京阪神圏における産業等の諸機能の集積**
⇒域内総生産額は約84兆円で我が国第2の経済圏。
⇒阪神港からの対アジア向け輸出は約7割。
- **地方都市の課題**
⇒中心市街地の空洞化、低未利用地・空き家の増加。
- **研究開発拠点の形成**
⇒国際戦略特別区域、関西イノベーション国際戦略総合特区に指定。
- **日本の歴史・伝統文化の集積**
⇒国内の世界文化遺産の約3割、国宝の6割以上が集中。
- **訪日外国人の増加**
⇒関西の外国人旅行者は日本全国の約5割。
⇒関西国際空港の国際線旅客就航便の8割以上がアジア路線。
- **ヒトとモノの流れを支えるインフラ整備**
⇒ミッシングリンクの残存、広域の高速道路ネットワークの整備の遅れ。
⇒コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の強化。
- **リニア中央新幹線の開通による巨大都市圏の形成**
⇒三大都市圏が1時間で結ばれる「スーパー・メガリージョン」が形成。
- **自然災害のリスク**
⇒南海トラフ地震発生確率は、今後30年以内に約70%。
- **急速に進むインフラの老朽化**
⇒2036年には道路橋の約6割が建設後50年を経過する見込み。
- **ICTの劇的な進歩等の技術革新の推進**
⇒データ・トラフィックの急増への対応、オープンデータの活用。

(2) 地域の目指すべき姿

- **アジアのゲートウェイを担い、我が国の成長エンジンとなる圏域。**
- **日本の歴史・伝統文化が集積し、世界を魅了し続ける圏域。**
- **快適で豊かに生き生きと暮らせる圏域。**
- **暮らし・産業を守る災害に強い安全・安心圏域。**
- **人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進地域。**

2. 広域的な交通の課題と取組

(1) 現状と課題

<平常時>

- 渋滞の慢性化、鉄道ネットワーク整備の遅れ、港湾への寄港便数の減少。
- 港湾及び道路ネットワークにおけるコンテナ船の大型化への対応の遅れ。
- 大阪府、京都府に集中している訪日外国人の他の地域への呼び込み。

<災害時>

- 「くしの歯作戦」の「歯」と「歯の根元部分」に相当する道路網の未整備。
- 大規模災害時の被災物流量は大阪府・兵庫県で近畿地区の約7割。

(2) 広域的な交通の取組

- ネットワーク機能の強化による対流促進。
- 広域観光・国際観光の推進。
- 都市環境の形成と地方都市の維持・再生。
- 南海トラフ巨大地震等への備え。
- ICTや自動運転等の技術の活用。

3. 広域的な道路交通の基本方針

(1) 広域道路ネットワーク

- **基幹道路ネットワークの形成**(環状・放射道路及び国土軸を構成する広域道路の整備)
- **基幹道路ネットワークの強化**(基幹道路ネットワークに並行する広域ダブルネットワークの整備)
- **基幹道路ネットワーク間の連携強化**(基幹道路ネットワークを連絡する広域道路の整備)
- **物流拠点へのアクセス確保**(国際物流拠点と基幹道路ネットワークを直結するアクセス路の整備)
- **安定した物流・人流の確保**(災害時には「命の道」となる道路の整備)

(2) 交通・防災拠点

- 交通拠点におけるモーダルコネクタ機能の強化。
- 交通拠点の機能確保のための基盤整備。
- 道の駅など既存施設の防災機能の強化。

(3) ICT交通マネジメント

- 災害情報を共有するシステムの整備促進。
- 自動運転サービスの社会実装、地域モビリティサービスの強化。
- 主要都市部における面的な観光交通マネジメントの強化。
- 新たな道路施策や交通マネジメントを推進するための検討体制の強化。